

委託事業実施内容報告書

平成22年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語教室の設置運営】 A

受託団体名 (特活)国際交流の会とよなか(TIFA)

1 事業の趣旨・目的

生活の中で必要な日本語を学び、また、在籍する高等学校での授業についていける日本語の習得を進め、充実した学校生活を送り、自立できるようにする。

日ごろ孤立しがちな生徒と一緒に日本語学習を通じて知り合い、交流する機会の提供

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	開催場所	出席者	議題	会議の概要
4月19日 (月)	とよなか男女共同参画推進センターステップ	松浦、筒井、村上	高校生のための日本語集中講座の年間計画、方針・広報について	第1回公開研修会のプログラム、講師、広報について詳細を決める。日本語講座の年間スケジュール、会場の確保について
5月21日 (金)	(特)国際交流の会とよなか事務所	松浦、筒井、村上	夏期高校生のための日本語講座の具体的な運営について 6月13日の研修会について	夏の講座の日程、会場、指導方針、講師、カリキュラム、広報の仕方について協議する。6月13日の広報、運営等詳細決定
6月26日 (土)	(特)国際交流の会とよなか事務所	松浦、筒井、村上	夏期高校生のための日本語講座を運営するにあたり、具体的な役割分担について	講師打ち合わせ研修会についての準備をする 夏の日本語教室、講師、カリキュラムについて協議する。夏の講座の案内チラシ・案内広報文の作成
9月2日 (木)	(特)国際交流の会とよなか事務所	松浦、筒井、村上	夏期高校生のための日本語講座の反省、冬期講座のプログラムについて	話す → 書く → 発表するの授業の形を基本とする。冬期講座の日程と内容について協議する。

10月6日 (水)	とよなか男女共 同参画推進セン ターステップ	松浦、筒井、 村上	冬期高校生のための日 本語講座の内容、具体的 な運営について	住まいのミュージアムの見 学をいれ、体験的に日本文 化を学ぶ。館内案内説明の 補助のしかたなど、具体的 なサポート体制について検 討する。見学をうけての日 本語指導を協議する。
12月6日 (月)	TIFA 事務所	松浦、筒井 村上	冬期高校生のための日 本語講座の内容につい て、下見報告、見学時の 案内について	住まいのミュージアム見学 の流れ、ボランティアによる 案内人の説明について、 ワークシートについて、 見学後の振り返りについて 協議する。冬の講座の案 内・案内広報文の作成
2月3日 (木)	TIFA 事務所	松浦、筒井、 村上	冬期高校生のための日 本語講座の反省、春期講 座のプログラムについて 日本語生活環境アンケー トの結果について、	4月に高校入学する新入生 対応、広報の仕方、講師の 選任、依頼について、大阪 大学日本語教育学生の協 力体制について協議する。 春の講座の案内チラシ作 成、案内広報文の作成

* 柳澤勤運営委員と桶谷仁美運営委員は運営委員会には出席できないが、メール・電話で
情報交換・指示のやりとりを行った。

3 研修会の開催について

研修会(公開研修会(①)および教材作成研修会(②、③、④)の具体的な内容

回	開催日時	時間数	参加者	内容
①	6月13日(日) 14:00~16:30 豊中市立蛍池公民館	2.5時間	29名	サマンティカさんを講師に、学習者から みた日本語指導—子どもの日本語教育 —をテーマに討議をすすめる。
②	7月6日(火) 18:30 ~ 21:00 豊中国際交流センター	2.5時間	10名	夏期講座のカリキュラム作成、日本語、 作文、現代社会、地理の指導内容の検討、 教材の選定(現代生活・カタログ)、日 本語レベルのチェック方法、自主教材作

				成、生徒・講師用アンケートの作成
③	12月14日(火) 18:30 ~ 21:00 豊中国際交流センター	2. 時間	8名	冬期講座の教材作成、ワークシート作成、生徒・講師用アンケート作成、
④	2月24日(木) 18:30 ~ 21:00 豊中国際交流センター	2.5 時間	9名	春期講座のカリキュラム作成、日本語指導教材作成、生徒日本語レベルチェック方法、生徒・講師用アンケートの作成

【写真】

運営委員会



4 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称：TIFA 高校生のための日本語
- ② 開催場所：大阪府立市民交流センター浪速、住まいのミュージアム、朝日新聞大阪本社、大阪府弁天町市民学習センター、インスタントラーメン発明記念館
- ③ 学習目標：
 1. 生活に必要な日本語の習得
 2. 日本の社会制度・歴史・地理・文化・習慣等に関する知識の習得
 3. 学校の教科学習に対応できる日本語の習得
 4. 少数点在する生徒同士の交流の場の提供
 5. 体験学習を通じた日本語の習得
 6. 一人で交通機関を利用できる

④ 使用した教材・リソース：

現代生活・日本語カタログ 1、2巻(大阪識字日本語センター作成)、自主教材、かんじだ
いすき、履歴書

⑤ 受講者の募集方法

大阪府立学校在日外国人教育研究会の協力を得て、全大阪府立高校管理職宛にメールにて案内を配信、日本語指導を担当している担当者宛に、案内のチラシを郵送、(特活)国際交流会とよなかのHP、ニューズレターに掲載、地域の国際交流協会にチラシを配布、日本語ボランティア教室に案内チラシを配布、子どもの日本語指導グループに案内情報提供、

添付資料：各講座の案内チラシ ①夏期高校生のための日本語講座、②冬期高校生のための

日本語講座、③春期高校生のための日本語講座

⑥ 受講者の総数 34 人

(出身・国籍別内訳 中国22人、韓国2人、ブラジル1人、ベトナム1人、タイ3人、フィリピン1人、コロンビア1人、ボリビア2人、ウルグアイ1人)

⑦開催時間数(回数) 12日(講座数 39 内体験学習は3講座) 各一般講座 1.5 時間
体験学習は3時間1講座、4 時間2講座

講座数36 X 1.5 時間 + 11時間 = 65時間

夏期講座6日間、冬期講座 2 日間、春期講座 4 日間の集中講座

⑧日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	7月26日(月) 13:00~17:00 4 講座	3 時間	25 人	中国語 18 人 タイ語 3 人 スペイン語 2 人 韓国 2 人	教授者 2 人 補助者 4 人	自己紹介、日本語レベル分け、自分史、自分を語る、性格、職業選び、自主教材使用
②	7月27日(火) 13:00~17:00 4 講座	3 時間	26 人	中国語 19 人 タイ語 3 人 韓国語 1 人 スペイン語 3 人	教授者 2 人 補助者 4 人	履歴書の書き方、面接の模擬練習、公共交通機関の乗り方、
③	7月28日(水) 13:00~17:00 4 講座	3 時間	24 人	中国語 17 人 タイ語 3 人 韓国語 1 人 スペイン語 3 人	教授者 2 人 補助者 4 人	日本の行事について、自国の行事について、日本との習慣、文化の違い、および日本に来てびっくりしたことについて作文、発表、質疑応答
④	7月29日(木) 13:00~17:00 4 講座	3 時間	17 人	中国語 12 人 タイ語 3 人	教授者 3 人 補助者 4 人	世界地理、日本地理、関西、大阪について知る。朝日

				スペイン語 2 人		新聞社見学の予備知識、語彙の説明
⑤	7月30日(金) 13:00~17:00 1 講座	4 時間	24 人	中国語 17 人 タイ語 3 人 スペイン語 3 人 韓国語 1 人	教授者 1 人 補助者 6 人	朝日新聞大阪本社見学
⑥	7月31日(土) 13:00~17:00 4 講座	3 時間	17 人	中国語 12 人 タイ語 1 人 韓国語 1 人 スペイン語 3 人	教授者 1 人 補助者 5 人	『朝日新聞社見学』のふりかえり。語彙のおさらい。見学の感想を書く。発表をする。
⑦	12 月 23 日 (木) 13:00~16:00 1 講座	3 時間	9 人	中国語 5 人 スペイン語 3 人 フィリピン語 1 人	教授者 1 名 補助者 12 名 (ボランティア含む)	『住まいのミュージアム見学』180年前の大阪の町並みを再現したミュージアムで案内を聞きながら、体験学習、ワークシートを作成
⑧	12 月 25 日 (土) 13:00~17:00 2 講座	授業 3 時間	8 人	中国語 4 人 韓国語 1 人 フィリピン語 1 人 スペイン語 2 人	教授者 1 名 補助者 9 名	見学の振り返りを映像をみながら、語彙・日本語表現・内容を確認して、ワークシートを完成する。それを参考に作文、発表をする。日本の遊びをする
⑨	3月14日(月) 10:00~12:00 13:00~15:00 6 講座	授 業 4.5 時間	7 人	中国語 4 名 ポルトガル語 1 名 スペイン語 1 名 ベトナム語 1 名	教授者 2 名 補助者 4 名 通訳者 1 名	初級：日本語レベル 4 級程度のテストを実施、インタビュー形式でレベルチェック、初級文型を使った自己紹介。中級：地震の新聞ニュースを

						読む、自分の町紹介、防災の知識
⑩	3月15日(火) 13:00~17:00 4講座	授業3時間	7人	中国語4名 ポルトガル語1名 スペイン語1名 ベトナム語1名	教授者2名 補助者4名 通訳者1名	初級：毎日の生活スケジュール、昨日したことが話せるようにする。～依頼表現の学習 中級：日常のちょっとした語彙や言い回しの確認と強化&ノンバーバルコミュニケーションを考える作業を日本語を使ってするタスク、漢字と大阪弁
⑪	3月16日(水) 13:00~17:00 1講座	授業4時間	8人	中国語5名 ポルトガル語1名 スペイン語1名 ベトナム語1名	補助者5名 ボランティア1名	体験学習 インスタントラーメン発明記念館を見学、自分独自のインスタントラーメンを作りながら、生活日本語を学習する作成したワークシートに記述しながら見学をする。
⑫	3月17日(木) 13:00~17:00 4講座	3時間	9名	中国語6名 ポルトガル語1名 スペイン語1名 ベトナム語1名	教授者2名 補助者4名 通訳者1名	インスタントラーメン発明記念館見学の振り返り、ワークシートの語彙・内容の確認、作文指導、作文発表

⑨ 特徴的な授業風景

7月26日



7月30日



7月26日

生徒13人 講師・講師補助 3名 後半Bクラス(中級レベル) 教材は自主教材

夏の講座の初日は参加者全員による自己紹介してもらった。自己紹介に対して質問を講師がして発話の様子から日本語レベル分けをする。初級と中級の2クラスに分けて、それぞれ講師が日本語指導をする。講師補助は2名が机間巡視をしながら各生徒の日本語学習を補助する。

- ①わたしの名前: 自分の名前の意味を話す。名前には名付けた人の子供に対する思いが込められていることを知り、その思いを受けとめることを意図した。
- ②わたしのライフヒストリー: 今まであったことを簡単な年表にする。
- ③わたしはこんな人: まず、性格を表すいろいろな言葉を導入。その後、自分の長所とそれにまつわるエピソードを発表。
- ④いろいろな職業: 職業を表す言葉を導入。その後、将来どんな仕事がしたいか、自分にどんな仕事が向いているか考える。* ①②③は④の将来の仕事をイメージする伏線と考え、さらに2日目の「面接・履歴書」につなげることを意図した。

7月30日

生徒25人、講師、補助者 7名

日本の代表的な新聞社の見学をする。前日に、新聞社から貸してもらっていた当日に放映されるビデオを観て、新しい語彙、表現、内容を自主作成したワークシートを使いながら説明する。大阪市の中心街にある朝日新聞社には、なるだけ自力で行けるように説明をする。社会で自立して生活できる為には、公共交通機関が使えることが必要である。全員無事に集合する。

2グループに分かれて、新聞社の歴史、仕事の内容のビデオ(前日に既に観ている)を観て、案内係りについて、新聞ができるまでの工程、新聞記者、カメラマンの働く様子などを見学する。難しい言葉は付き添いの講師補助が随時説明する。見学終了後、記念撮影をする。その写真が載った見学者向け新聞紙をもらう。生徒は初めて日本企業の内部の様子を知ることができ興味をもって見学をしていた。

3月16日

生徒8名、講師補助者5名、ボランティア1名

世界中どこにでもあるインスタントラーメンの発明記念館に体験学習に行く。体験を通じながら日

本語を学ぶ。日常使われている調理関係の語彙を習得する。インスタントラーメンの歴史を知る。社会で自立する上で必要な公共交通機関を使える。などが指導目標である。

生徒は、初めての場所に、駅員に聞きながら公共交通機関に乗り集合してきた。ラーメン館では、自主作成したワークシートをもちながら、館内を見学して、見学ポイントを知る。体験では、講師補助と生徒がペアになり、わからないところは、講師補助に聞くかたちで日本語を学びながら、自分のオリジナルチキンラーメンを作る。小麦粉をこねる。生地を伸ばす。麺状に切る。蒸す、油で揚げる、袋に入れるなどの工程の語彙を確認しながらラーメンを作っていく。翌日の日本語講座では、記入したワークシートの内容・語彙の確認をして、ラーメン記念館見学についての作文を書き、全員で発表をした。

⑩ 活用した日系人等(日本語を母語としない)の名簿

氏名	母語(国籍)	来日年(日)数	参加回数	当該教室での役割
サマンティカ	スリランカ	2000年	1回	公開研修会講師 アドバイザー
成長恵子	中国	1998年	3回	春期高校生日本語講座での通訳

⑪ 支援者の名簿(⑩以外)

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
安田乙世	大阪YWCA 大阪府教育委員会 日本語専門員	日本語教育、中国語	9回	教授者、教案作成者、教授補助者
吉田美美	龍谷大学留学生センター	日本語講師、日本語教育	8回	教授者、教案作成者、教授補助者
寺尾美登里	龍谷大学留学生センター	日本語教育、スペイン語	7回	教授者、教案作成者
大倉 安央	大阪府立門真なみはや高校	社会科教諭	1回	教授者、教案作成者
柳澤 勤	大阪府立長吉高校	国語科教諭、日本語教育	7回	教授者、教案作成者
橋本義範	大阪府立八尾北高校	社会科教諭	6回	教授者、教案作成者
酒井清夏	大阪府立長吉高校	国語科教員、日本語	3回	教授者、教案

		教育		作成者
寺嶋辰美	大阪府立長吉高校	国語科教諭、日本語教育	6回	教授補助者、 教案作成者
澤田 幸子	(財)海外技術者研修協会	日本語	4回	教授者、教案 作成者
和栗 夏海	国際交流基金	日本語教育	2回	教授補助者、 教案作成者
伊藤秀子	大阪府立高校非常勤講師、日本語講師	日本語教育 英語教育	8回	教授者、教案 作成者、教授 補助者
金月由紀子	豊中市立第4夜間 中学日本語講師	日本語教育	1回	教授補助者
梨木 亜紀	大阪市教育委員会	スペイン語教育サポ ーター	3回	教授補助者
松浦斎美	(特)国際交流の会 とよなか	英語教育	9回	教授補助者、 教案作成者
本間幸代	(特)国際交流の会 とよなか	日本語教育	2回	教授補助者
村上自子	大阪府日本語教育 支援センターコーデ ィネーター 大阪府教育委員会 日本語専門員	スペイン語教育サポ ーター、日本語教育	13回	教案作成者、 教授補助者
島本 真知子	(特)国際交流の会とよ なか	英語教育	1回	教授補助者
青木 加枝	大阪府立高校教諭	国語教育	1回	ボランティア
田中 旭子	大阪大学 大学生	日本語教育	2回	教授補助者
中岡 樹里	大阪大学 大学生	日本語教育	3回	教授補助者
新谷 知佳	大阪大学 大学生	日本語教育	2回	教授補助者
妹尾 美奈	大阪大学大学院生	日本語教育	4回	教授補助者

森田 千博	大阪大学 大学生	日本語教育	3回	教授補助者 教案作成者
亀山永子	大阪府立高校教諭	日本語教育	1回	教授補助者
田坂百合子	(特)国際交流の会 とよなか	幼児教育	1回	ボランティア

5 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

年々大阪府立高校に入学編入してくる日本語指導が必要な外国にルーツをもつ生徒が増えていて、少数点在化、多言語化が進んでいる。高校では十分な日本語指導が受けられないケースが多い。また、日本語が不十分なので日本人の友人ができにくく、孤独感を感じている生徒もいる。

渡日生徒が集まり、安心して日本語を他の高校の渡日生徒と学ぶことで、仲間がいることを知り、交流が広がっていった。①日本語学習としては日数的には少ないが、講師補助が付くことで、生徒各自の日本語レベルに応じた日本語指導ができた。②生徒それぞれの日本語習得の課題を見つけることができ、それぞれの高校の先生方に報告することができる。③自分で公共交通機関を使って、目的地に行き、そこから帰るなどの社会的自立を3回の見学を通じて経験できた。

④春期講座の始まる前に、東北関東大震災が起こったので、地震対策や防災のことをテーマに日本語指導をしたが、生徒たちはとても真剣に聞いていた。地震が無い国からの生徒にとって「地震が起こったら、どうしたらいいか？」を学べる機会になった。

②学習者の習得状況

夏期講座では、日本の社会の構成員として必要な日本語指導を中心にカリキュラムを組んだ。自分の住んでいる地域を世界地図から順に、日本、大阪府と学んでいった。朝日新聞社見学をして、体験を通じて日本語指導、および現代社会に関する語彙、内容の指導を行った。一人で目的地まで公共交通機関を使い行く経験ができた。日本の企業で働いている人々を間近に見ることができてよかった。新聞を作る工程がわかって興味深かったとアンケートには書いていた**冬期講座**では、昨年につき、180年前の大阪の町並みを再現している「住まいのミュージアム」を見学して、日本の歴史、文化、習慣を体験しながら学んだ。具体的に語彙・内容が理解できたようだ。また、日本の歴史に興味を沸かせたとアンケートに書いていた。

春期講座は、23年度の4月から入学・編入する生徒も参加対象にした。また、滞日年数が10年以上にもかかわらず、母語も日本語も十分でない生徒の参加もあり、学習言語の語彙の定着および、学習方法を指導した。どの講座も必ず、自分の意見、考えを書く、発表することを取り

入れているので、回数を重ねるごとに生徒は自信をもって発表していく様子が見られた。新入生は、貪欲に日本語学習に向かっていた。高校入学後の日本語習得に繋がっていければと願っている。

講座の回数は少ないが、生徒には新しい語彙・表現を習得していった満足感を感じてもらえた。生徒のアンケートから、楽しく交流しながら、日本語学習ができたことが嬉しかったと、この日本語講座は評価されている。

③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

参加した生徒にとつたアンケートより

1. 日本語の勉強ができたし、新しく友だちもできたので、参加して良かった。
2. 地震についての勉強をしてとても良かった。
3. 久しぶりに友だちにあえてよかった。
4. 先生がやさしくて、わかりやすく日本語を教えてくれて、新しい単語をたくさん勉強した。
5. 一緒に日本語を学びながら、いろんな国から来た友だちと国の話が聞けて面白かった。
6. 初めての人と一緒に日本語を勉強して楽しかった。
7. 作文を書いて、みんなの前で発表できてよかった。
8. 日本の昔の町を見て、日本の文化や歴史に興味をもった。
9. 新聞社を見学して、新聞がつくられる様子がわかった。
10. みんなと一緒にラーメンを作って楽しかった。
11. 違う高校のひとと知り合えてよかった。
12. 日本の生活知識を知った。例えば、自己紹介、アルバイトの探し方、面接のしかたなど。

参加した講師・講師補助にとつたアンケートより

1. 少人数で細かい日本語指導のサポートができてよかった。
2. 生徒にとって、同じ境遇の友だちができてよかったと思う。
3. 休み期間だけでなく、普段もこのように、みんなが集まって日本語を勉強できる機会があればいいなあと思います。
4. 小数点在校の生徒にとっては、いい機会だと思います。特別卒校の生徒が多く参加するとすでに高校内で固まる傾向があると感じました。本当に必要としている生徒がもっと主体的に参加できるように参加には制限をかけていいと思います。
5. 子どもの日本語教育を支えていく若い方の参加もあり、人材の育成にも意味があると感じる。今後はもっと若い方々が実際の指導に当たる機会を作っていくことも考えたい
6. いろいろな学校の生徒と出会うことができ、生徒の日本語習得の様子、課題がわかった。
7. 他校の同じような境遇の人たちとこのような交流の場が持てるのはこれからの高校生

活に励みになるのではと思う。

8. 短い期間の日本語講座なので、知識を教えるというよりも子どもたちを支え、子どもたちの交流の場としての役割が重要だと思った。
9. 学校の枠を越え、外国にルーツをもつ生徒たちが『日本語学習』というキーワードで集える場所を提供することは、非常に有意義だと思う。普段の学校生活ではマイノリティーである彼等が「フツウの生徒」になり、自然体でいられる所。『間違いを恐れずリラックスして日本語で話せる居場所』はかけがえのないものだと思う。
10. この取組が他の学校の先生方の日本語指導の養成に役立てられないかと考える。

④地域の関係者との連携について:

サマンティカ氏を講師に学習者からみた日本語指導—子どもの日本語教育—の研修会に、地域の日本語教室のボランティア、学校関係者たちにも参加してもらった。日本語指導を必要とする子どもたちが増えていること、また日本語支援、学習支援、保護者の支援が必要なことを理解してもらい、地域の日本語教室での子どもたちの受け入れをお願いした。高校生に地域の日本語教室、行事や教養講座などを紹介して、日本の文化・習慣に触れる機会を提供したい。また、同じ年代の日本人と触れ合う機会を提供したい。

地域で子どもたちに日本語指導、教科指導をしているボランティア教室 ①サタディクラス ②こどもひろばと連携して、春期講座には23年度4月から編入する生徒の参加申し込みをもらった。また、ボランティア支援者・日本語指導内容なども今後連携をしていきたい。

⑤改善点、今後の課題について

A.現状

参加者の高校生の日本語環境を調べるために、参加者の内 29 名からアンケートをとった。アンケートから、今回の参加者は、来日暦が浅い生徒が多かったこともあり、家族とは、母語でコミュニケーションをとっている。日本語力不足のため、高校の授業についていくのに課題を持つ生徒が多い。理科、社会、国語の授業が分からないと多くの生徒がアンケートで答えている。また、日本人の友だちができない悩みを抱えた生徒もいる。参加した理由として、もっと日本語を学びたい。特に、話すことを学びたい。それは、学校生活で十分に自己表現ができていないことを意味する。70%を越える参加者は、高校卒業後は大学・専門学校進学を希望している。参加した高校生の日本語力をみると、当然知っているべき語彙の欠落がある。日本社会で暮らしていくには、生活者としての日本語や日本文化・制度についての知識が欠かせない。一人で公共交通機関を利用することが困難なことから、狭い交際範囲で生活をしていることが分かった。家族の中で一番日本語ができることから、家族の代わりに行政手続きをすることを求められることもあるので、学習言語以外にも生活者として必要な日本語を学べる機会の提供を広げる必要がある。大阪府の現況として、地域で高校生の年代が学べる日本語教室は極端に少ない。高校に少数点在する日本語が十分でない渡日生徒は、日本人生徒の中で、十分に自己表現をできずに、

孤立する傾向である。学校以外で日本語・日本文化習慣を学べる機会と場所の提供が必要である。また、同時に府内に散らばっている渡日高校生が交流できる機会の提供が必要である。

B 今後の課題

大阪府内の高校生を対象にした日本語事業なので、どこに教室を設置するかは重要課題であった。昨年に比べて、会場となる場所が公費削減の為に減ったので、安くて連続して借りれる場所に苦労した。今後、学校を使えるように交通の便が良く、行きやすい場所、安全な場所、会場費が安いところ、連続して会場を借りることができるところ、と難しい条件があった。このような条件の下に選んだ会場であったが、遠くから通う高校生にとっては、交通費が大きな負担である。教室の設定場所は課題である。今後学校の教室を使うことも視野に考えていきたい。

小学校低学年、または幼児期に来日しているが、学習日本語が定着しておらず、母語力も低い高校生は、日本語力がないという自覚がない。また、学校でも、彼らの日本語力が意識されていない。このような生徒の参加を促し、彼らに必要な日本語支援をする必要がある。

C 今後の活動予定, 展望

このところ大阪府内の外国人児童生徒の傾向として、多言語化と少数点在化が見られる。国際結婚による呼び寄せ、認定された難民の子弟や様々な理由で来日せざるを得なかった子どもたちの高校入学・編入が増えている。しかし、高校入学後の適切な日本語指導体制はできていない学校が多い。この講座は、渡日高校生の日本語レベル、日本語学習における問題点、生活環境、友人関係など、渡日生特有の課題を共通認識できる講座だと思うので、高校教員の講師補助としての参加を呼びかけていきたい。そのことで、今後どのような日本語支援が必要かを考える参考にしてほしい。①講座を通じて参加した高校生各自の日本語の課題がみえてきたので、高校生活を送る上での留意点や日本語指導方法を生徒が在籍する高校の日本語対応にいかしていけるように連携 ②日本人の高校生より交際範囲が狭く、生活者としての自立に必要な情報が少ないことが判明したので、自立に向けたプログラムをいれた日本語指導 ③地域の日本語教室「サタディクラス」「こどもひろば」の支援者と連携をとり、日本語指導や教科指導の情報交換 ④孤立しがちな渡日高校生が日本語習得しながら交流できる居場所作りの機会提供 ⑤地域、行政、民間企業と連携して、高校卒業後の進路を含めた幅広い支援体制づくりをしていきたい。

⑥その他参考資料 :①受講生に対しての各集中講座のアンケート用紙、②講師、講師補助に対しての各授業についてのアンケート、③受講生の日本語環境についてのアンケートを添付します。

【日本語教室設置運営】 B

3 養成講座の内容について

- (1) 養成講座名 ナイト漢字クラス
- (2) 養成講座の目標 夜間しか日本語を学ぶ機会のない外国人の日本語の力をつけ地域社会の一員として活躍できるようにする。
- (3) 受講者の総数 40 人
- (4) 開催時間数(回数) 60 時間 (40 回)
- (5) 参加対象者の要件 夜間勉強したい外国人なら、にほんごレベルは問わず参加できる。
受講者の募集方法
当会のホームページ、とよなか国際交流センターの掲示版、ポスターなどで募集。
- (7) 研修会場 とよなか国際交流センター
- (8) 使用した教材・リソース
「にほんごこれだけ」「New Approach to Japanese」「漢字テキスト」「みんなの日本語」
「保育所入所案内・入所手続き」「市役所への届け書類」「学校からのお知らせ」など
- (9) 講座内容
実施日時: 4月17日～3月22日まで毎週火曜日 19:30～21:00
実施場所: とよなか国際交流センター
指導者: 教授者中田峯代
補助ボランティア5-8名
内 容: 講師が必要と考える課題・受講者のニーズに応じて、テキスト・受講者が持参した資料等を中心に、出来るだけニーズ別対応で実施した。
- (10) 講座の評価
 - ① 受講生に対するアンケート
子どもの学校の書類がわかるようになったし、先生とも話ができうれしい。
漢字が少し読めるようになった。先生たちが親切だ。ずっと続けて来たい。
仕事場の日本人と話ができるようになった。 など・・
 - ② 実施主体からの研修内容結果評価
この教室で勉強している人たちは、地域の生活に慣れてきている。
 - ③ 実施主体からの外国人支援体制等今後の計画
外国人支援体制をもっと発展させ、できるだけ早く自立し、地域社会の中で活躍できるように支援していく。
- (11) 事業の成果

① 他事業との連携 金曜日に実施している当会の「にほんご交流サロン」、「日本語指導者養成講座」、とよなか国際交流センター事業の金曜日、木曜日の「にほんごきょうしつ」も紹介し、連携していく。

② 研修後の人材活用

地域社会で自立して活躍できるようにする。

(12) 今後の課題

地域で生きていく外国人が日本での生活が順調にできるよう支援していきたい。